



つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」

No.28 令和2年度

会長挨拶

静岡県在宅保健師の会つつじ会 会長 鈴木 富士子



『これからのつつじ会』

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の1月16日、日本で最初の感染者が発生した「新型コロナウイルス」の感染拡大については、今なお社会的・経済的に非常に困難な状況が続いております。本会も事業計画を大幅に縮小し行っております。これまでの役員会の取り組みは別紙をご参照下さい。国や県等から急な要請もありましたが、会員の皆様には迅速にご協力頂きまして大変感謝しております。

総会は書面表決と致しました。全体研修会は静岡厚生病院・田中敏博医師による「コロナ時代の医療の役割」というタイムリーなテーマで開催できました。特定健診・特定保健指導フォローアップ等家庭訪問事業も、松崎町のご協力のもと感染予防を徹底し実施致しました。

そして「つつじ会」は、今年度大変大きな賞を二つ受賞致しました。「静岡県知事表彰」と「保健文化賞」であります。思いがけない吉報に驚くと共に、非常に感慨深い思いであります。28年にわたる「地域活動及び家庭訪問活動」が高く評価されての受賞であります。

平成5年1月に発足して以来、「地域のお役に立ちたい」という先輩諸姉の強い思いが、現在まで引き継がれてきた活動の基盤となっております。私達の活動を支えてくださいました総ての皆様に心よりお礼申し上げます。

今後、健康寿命の延伸や疾病予防活動に必要とされる存在として、地域の保健・福祉に貢献していきたいと思っております。

現在の会員数は44名。会員を取り巻く状況は年々変化してきております。ほとんどの会員が行政や医療機関や企業で非常勤として仕事をしております。総会や役員会・研修会への出席も日程調整が難しい会員も少なくありません。さらにコロナ禍での保健師及び看護師の不足は深刻であり、潜在看護師の活用や保健所支援のため「保健師人材バンク」の仕組みも動き出しました。今後の様々な要請に応えるためにも、事業の評価をきめ細かく行い、お互いの実践や活動を共有できるように研修内容の更なる充実を目指すことが今後の課題であると思っております。そして、多くの会員が研修会に参加できるよう工夫も必要になってきます。自粛生活の中でオンライン活用の有効性や集合研修の大切さも再認識しましたので、色々な方法を試みても良いのではないかと考えます。

また、仕事以外にも個人で活動している会員も多く（高齢者の居場所づくりや職域での学習会、民生委員・児童委員、人権相談員、手芸教室・マスク作り等）地域の生活の場でさりげなく当たり前のようにボランティアとして関わっております。そのようなことの情報交換や会員が繋がる「場」を大切にしていけることも、今後は大切かと思っております。

新型コロナウイルスの収束はまだまだ難しい状況です。ご自身の体調管理に十分留意されこれからも地域へのご支援をお願い申し上げます。

令和2年度全体研修会

開催日：令和2年7月21日（火）
 場 所：静岡県国保会館別館
 講 演：「コロナ時代の医療の役割」
 講 師：JA静岡厚生連 静岡厚生病院
 医師 田中 敏博 氏



冒頭で、「医療従事者の皆さん、ありがとう」という医療関係者への賛辞と喝さいに対し、田中先生は疑問を感じたそうです。なぜならコロナ患者収容施設では、マンパワーや対策費の慢性的な不足と「あの病気に罹ったら危ない」という風評被害によって「もう少し我慢しよう」と受診控えが起こり、最前線で頑張っている多くの医療施設で経営状況が悪化している現状があるからです。受診控えには、糖尿病や高血圧症等の慢性疾患の定期受診や特に乳幼児健診の中止や健康診断、歯科の定期受診、そして、予防接種があります。



<説明する田中先生>

人間は「感染症」に対して立ち向かってきた歴史があると説明がありました。

いわゆる予防接種は、ワクチン(ツール)を使って接種した本人と集団・地域を感染症から守るもので、その歴史は種痘に始まります。イギリスの医師エドワード・ジェンナーが牛痘に感染した人が天然痘に罹らないことを知り、牛痘に感染した乳絞りの膿を少年に植えつけ感染確認し治療。のちにこの少年に天然痘を接種し感染しなかったことから、1796年種痘法が完成したということです。ワクチンの分類を病気の側からみて、ここ最近約10年間に激減した病気にはHib、肺炎球菌、ロタ、

水痘があり、まだまだみられる病気にインフルエンザ、麻疹、風疹、百日咳、流行性耳下腺炎、B型肝炎、結核、HPV(子宮頸がん)。ここしばらく殆どみられない病気にポリオ、破傷風、ジフテリア、日本脳炎があるとのこと。ワクチンの中には抗体価が減弱するものがあり、2019年に百日咳の流行が起こったり、生ワクチンによる小児マヒ発症例があったポリオは2012年9月から不活化ワクチンに切り替わるなどの流れがあります。

では新型コロナはどうか。同じウイルスにSARS、MARS、ヒトコロナウイルス COVID-19(風邪ウイルス4種類など)があります。今回の新型コロナウイルス感染症は、いわゆる「かぜ症状」だが胸部の特徴的所見、嗅覚・味覚の異常、基礎疾患がある者・喫煙者・高齢者は重症化する、感染力が強い(発症前2日から感染力がある)、無症状の不顕性感染がある、今のところワクチンや特効薬がない。

これまでにない新型の感染症で油断は禁物。既存の予防接種は受け、罹るか罹らないかではなく罹っても重症化させない、広げない、科学的根拠を基に情報を正しく得て理解し“お互いさま”の気持ちで感染拡大防止に努めるほかないとのことでした。

研修資料の(公社)静岡県看護協会の「感染症対策マニュアル」で理解を深め、今後も感染拡大に注意して行動したい。
 (太田伊津美)



令和元年度家庭訪問事業 浜松市

事業名：「特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業」

目的：特定健診の結果、受診勧奨判定値を超えたにもかかわらず医療機関を受診していない方に対し家庭訪問を実施し、「かかりつけ医」への受診勧奨を行うとともに、必要に応じて生活習慣の改善に向けた助言を行い、生活習慣病の発症予防・重症化予防を図る。

内容：①訪問対象者に対し、実態を調査し医療機関への受診勧奨を行う。
②生活習慣病の一次予防として、必要に応じた生活習慣の改善に向けた助言を行う。
③訪問対象保険者の保健・福祉サービス等の情報提供を行う等。

令和元年度の家庭訪問事業では、浜松市を訪問しました。

県西部に位置する浜松市は政令市であり、人口約 80 万 3000 人。75 歳以上の後期高齢者は約 11 万人と 14% を占めています。浜松市の医療費は年々増えており、平成 29 年度には一人当たり約 35 万円。費用額は約 620 億円にも上ります。中でも、特定健診未受診者の腎不全、悪性新生物、脳血管疾患、心疾患にかかる医療費が目立って高くなっています。

かかりつけ医への受診勧奨と生活習慣の改善に向けた助言を行い、生活習慣病の発症予防・重症化予防を図ることを目的に、最初CKD対策として、その後は受診勧奨判定値を超えたにもかかわらず医療機関を受診していない方を抽出し、計 50 名の訪問対象が決定されました。

例年の訪問事業では、葉書で事前に対象者に連絡をしていましたが、浜松市では事前連絡なしの訪問となりました。結果、訪問件数 125 件に対し、実施件数 46 件で 36.8%の実施率（同時に訪問事業を実施した吉田町は 84.5%）でした。このことから、重症化予防の事業としては個別指導が必要なケースとして区分し、対象者の生活実態に合わせた保健指導の内容を考えると、事前の連絡が必須と思われます。

訪問していて感じた事の一つに、対象者に会いたいの会えないもどかしさがありました。例えば、経年データが急激に悪化しているケースに対し受診を勧めたくても、昼間は働いているためにそれがかなわないことです。対象者に直接会って日頃の生活習慣を見直すことを勧めると、菓子パンを食べ過ぎていた・煮物に砂糖を使

い過ぎていたなど、どこを改善すべきか本人が気づいてくれることがあります。重症化予防のためにも、こういったケースの訪問や保健指導方法の検討が必要と感じました。



〈家庭訪問事業報告会（浜松市役所）〉

健診実施機関により実施内容に格差がみられ、医師自ら保健指導も実施し、家庭での生活習慣改善もコントロールできているか定期的に電話で確認・アドバイスしてくれているところもありました。逆に保健指導を受けたくて、一覧表に載っている近医に連絡したところ、「うちは保健指導をやっていないから他をあたってくれ」と言われ、意欲が失せてやめてしまったケースがありました。医療機関の対応の格差をできるだけ小さくするためには、医師会の協力も不可欠なものであると、改めて感じた一件でした。

訪問にあたり、浜松市の皆さまと国保連合会の御協力のおかげで、家庭訪問を無事終えることができました。ありがとうございました。（山田久美子）

令和元年度家庭訪問事業 吉田町

『吉田町の訪問を終えて』

県中部地区の吉田町は、人口 29,614 人 高齢化率 24.8%と周辺市町に比べ、比較的若い町です。

4名の訪問保健師が 58 件訪問し、不在等により実施できなかった 9 件を除いた 49 名（男 35 名 女 14 名）と面談しました。年齢別では 40 歳代 6 名、50 歳代 6 名、60 歳代 19 名、70 歳代 18 名と前期高齢者を中心に訪問しました。

本事業の目的である医療機関への受診状況は、訪問前は 7 名、訪問後 12 月までに受診した人が 5 名、合計 12 名が受診に繋がりました。

実際、訪問してみるとキャンセルはほとんどなく、対象者の皆さんは、私たちの訪問を待っていてくれ、受け入れはとても良かったです。



<家庭訪問事業報告会（吉田町役場）>

直接お話を伺うと、医師への受診が必要な検査結果にもかかわらず、年々悪化するデータの読み取り・理解ができていなかったり、自覚症状が無いために自分事としてとらえていない人が多いことに驚きました。そこで私たちは、自分の身体の中に起こっている変化を、対象者自身が危機感を持って対処できるように健診結果の返し方や保健指導の方法や内容の工夫について町に提案しました。

対象者の中には、既に車の運転中、眠気におそわれ自損事故を起こしたケースもあり、睡眠時無呼吸症候群も含めた重症化疾患の発症予防に努める必要性を感じました。

また、経済的理由で治療を拒むケースや治療中であっても自己管理が困難なケース、重度の受診勧奨値であってもかかりつけ医から「内服治療の必要なし」と言われているとのケース等、生活習慣病の重症化を予防するためには、国保・ヘルス部門だけでなく福祉部門、さらに医師会をはじめ関係機関との協議、連携の重要性を実感しました。

吉田町は漁師町でもあり、早朝漁に出て昼過ぎに家に帰り、酒を飲んで寝てしまう！という生活スタイルを長年続けている人も多く、今回の訪問を機に身体に負担の少ない生活習慣へと改善できるよう時間をかけて支援していきたいと思いました。

訪問を終えて、重症化予防の訪問の難しさをあらためて実感しています。健診結果の正しい読み取りに始まり、医学的根拠に基づいた適切なアドバイス、さらに、今後起こりうるであろう体調の変化を予測して、今何をしなければならないかを対象者自身に気付いてもらえるように寄り添うこと等、今後は事例検討等を通して、訪問保健師としての更なる力量形成に努めていきたいと思っています。（報告会より）



帰国者・接触者相談センターの業務支援

令和2年4月に静岡県健康増進課から新型コロナウイルス感染症対策に係る協力依頼を受け、つつじ会会員2名が帰国者・接触者相談センターの業務に協力しました。

業務内容：帰国者・接触者相談センターにおける相談、疫学調査、健康観察業務等
勤務場所：熱海健康福祉センター（1名）
富士健康福祉センター（1名）

『COVID-19 対策の最前線に関わって』

私は、本年3月末日まで、熱海保健所会計年度任用職員として新型コロナ感染症対策に関わっています。昨年4月に鈴木会長から国保連合会を通じて帰国者・接触者相談センター業務の依頼をご連絡頂き、2ヶ月ならばと受諾しましたが、現在も継続中です。

当所は、熱海・伊東の2市を管轄し、保健師2名を含む5人と他部署からの応援職員・臨時保健師で対応していました。

私は住民からの電話相談や、濃厚接触者への健康観察連絡に従事。当初は各保健所が上記センター機能を担っており、受診相談が相次ぎました。増加する陽性者の数に比例するかのように様々な不安が、体調の変化をすべてコロナと結びつけてしまう人も。事業者（所）や施設からも感染防止対策や新しい生活様式の解説を求められたり等々の多種多様な内容に、厚労省HPや通知、新聞記事及び課僚に頼りながらの対応でした。当然これらの記録やパソコンへの入力も。

その後、クラスターもあり、自宅療養者の健康確認も担い、多岐に渡る業務※に忙殺される職員の方々の負担軽減になればと患者情報の整理等も行っています。

ほんの一部ではありますが、当対策に関わった者として、一日も早い終息を願わずにいられません。

（※COVID-19は、新たな感染症であるため、国の対応方針及び疾病の科学的解明や感染者拡大に伴う状況変化に県、保健所も多様な対応をしなければならず、日々の忙殺状態を推測できると思われます。）（渡邊弘子）

『開拓者たる保健師達へ』

新型コロナウイルス感染症の第1波が収まりかけていたGW明けから5か月間、富士保健所に相談要員として週4日務めさせていただきました。

第1波では公衆衛生の最前線である保健所は、まさにメールと電話の嵐に巻き込まれていました。この状況でも相談記録が残され、体制も構築されてきたことに理性と秩序を感じ敬服しました。私は電話相談の傍ら、相談票やPCR検査連絡票の分厚い束の入力を通して様々な声を知りました。不安や怒り、心無い罵声、板挟み等相談員の苦しい立場が想像され、支援前に自宅で悶々と過ごしていた私は、微力ながら役に立ちたいという思いをあらためて強くしました。

しかし、相談や検査の体制は改善されつつあるものの、息つく間もなく、7月下旬頃からの第2波は、クラスター対応という新たな状況に追われることになりました。

さらに今、第3波の真只中にあり、医療崩壊が目の前に。業務から離れた私にも保健所の保健師達の疲弊した声が届いてきますが、その中の言葉に光を見つけました。「市保健師の役所内や各方面での交渉っぷりたるや頭が下がります」と。保健所と市町が一丸となってコロナと闘っている姿が覗えて頼もしく感じました。

ここでは敢えて県内の保健師達へ、辛いけれどこの難局を切り拓いてほしいと心からエールを送ります。その使命感と忍耐力は必ず足跡となって後世に、そして後輩達に引き継がれていくはずです。（米山民恵）

静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会の看護業務に協力して

<静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会>

主 催：公益財団法人しずおか健康長寿財団

目 的：スポーツ等を通して、高齢者を始め県民のふれあいと交流を促進する。

6月に入り、静岡県及び静岡県健康長寿財団から静岡県すこやか長寿祭の看護業務（救護活動）について依頼があった。この事業は毎年開催される『全国健康福祉祭（愛称：ねんりんびっく）』の静岡県代表選手選考会を兼ねている。



昭和60年から始まり、原則60歳以上を対象に、現在はグランドゴルフ、剣道等36種目がある。

4/16 全都道府県に緊急事態宣言が発出され、「全国健康福祉祭」が1年延期になり、4月～6月の県内競技も全て中止となった。

5/25 緊急事態宣言が全域解除になったが、高齢者の「外出自粛生活による身体不活動」が強く懸念されていた。規模を縮小し感染予防対策を徹底して、7月から県内の競技を開催することとなった。

急な要請であり協力出来そうな会員に至急連絡を取り、10名の会員が即座に協力を快諾、7月から派遣が開始された。

◆7/2～8/16＝11会場・延べ22名

（10名の会員が協力）

◆9/4～2/27＝13会場・延べ25名

（6名の会員で実施中）

規模を縮小しなければ、一会場に参加人数が700人を超える種目もあるとのこと。日頃の練習も毎日欠かさない参加者も多く、静岡県の健康寿命の延伸に大きな貢献をしていると思われる。

糖尿病治療中の人も、どんな運動も長続きしなかったが仲間ができて続いているとのこと。参加者からも「看護職が待機、感染予防対策も徹底しており安心した」という声も頂いている。

救護当日は、参加者の体温・体調チェックから始まり、閉会式終了まで救護業務を担いました。大きなけがや病気はありませんでしたが、呼吸が苦しくなり肺気腫を疑った方や転倒して腰を痛めた方がいらして病院搬送したり、応急処置により事なきを得ました。

参加者の皆さんとお話すると、若々しく生き生きしていることに驚きます。60歳から最高齢95歳の参加者が、競技が始まると背筋がピンと伸びて、華やかな色柄のユニフォームに身を包むと青年のように輝いて素敵でした。



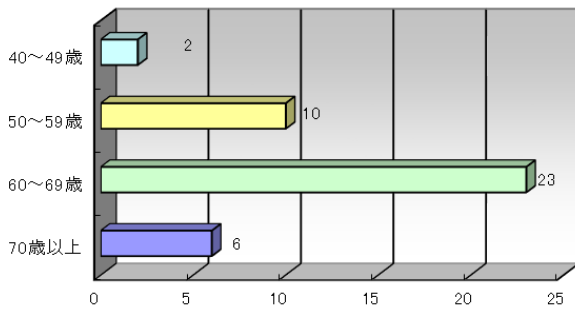
<感染対策をして競技を見守る>

参加された皆さんのように90歳を越えてもグランドで生き生きと走り回れるためには、普段からの体力作りに努力しないといけないと思いました。（小林松美）

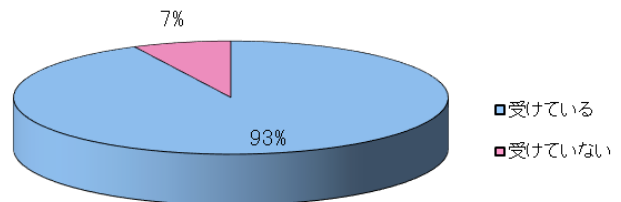
令和2年度会員の活動状況・つつじ会事業状況

(令和2年5月調査)

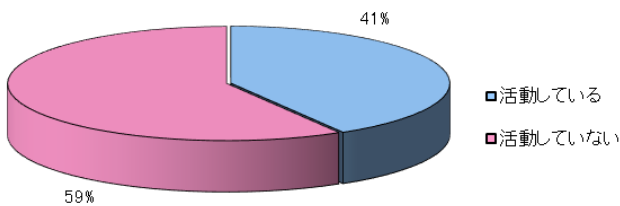
年齢階層別人数



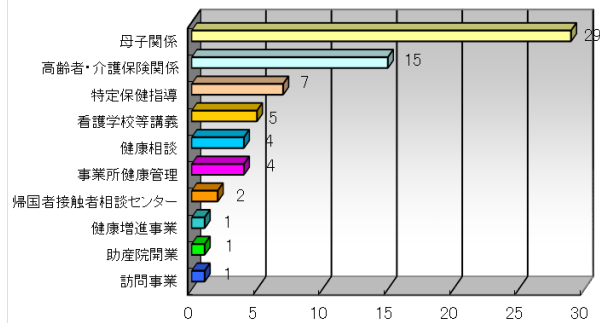
市町・事業所・健診センター等から委託業務を受けている人



地域で活動している人（ボランティア等）



業務別従事状況（複数回答有）



<令和2年度事業状況>

- ・ 4月20日 総会（書面開催）
- ・ 6月16日 第1回役員会（国保会館）
- ・ 7月21日 全体研修会（国保会館）
- ・ 9月～10月 国保連合会保険者支援事業への協力
特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業（松崎町）
- ・ 10月20～22日 第79回日本公衆衛生学会（Web）
- ・ 10月23日 第2回役員会（国保会館）
- ・ 3月16日 第3回役員会（予定）

受賞

静岡県知事表彰



つつじ会の長年の功績が認められ、地域活動・ボランティア等善行功労者部門において静岡県知事表彰を受賞しました。おめでとうございます！！

編集後記

世界中に混乱をもたらしている新型コロナウイルス。収束に至ることなく一年が経過しています。歴史の中に繰り返される感染症の恐ろしさを目の当たりにし、公衆衛生の重要性を再認識すると共に、意識を高めた国民ひとりひとりの健康管理の大切さを痛感しています。「微力な私に何ができるのか」と思いつつ時を過ごしております。

日本全国の自粛生活に、つつじ会活動も足並みをそろえ、一年ぶりの発刊となりました。コロナ禍の中で、寄稿に御協力頂きました皆様と連合会事務局の御支援に心より感謝申し上げます。 (勝呂真弓)

「つつじ会」会員募集

つつじ会では、今までの経験を活かし、一緒に活動していただける方を随時募集しています。身近に関心のある方がいらっしゃいましたら、つつじ会役員まで御連絡ください。1月1日現在の会員数は44名です。☆静岡県国保連合会ホームページ内のつつじ会案内もぜひご覧ください。

静岡県在宅保健師の会
「つつじ会」



令和3年1月発行

発行責任者：静岡県在宅保健師の会

「つつじ会」会長 鈴木富士子

発行者：静岡県国民健康保険団体連合会

総務部 事業課

〒420-8558

静岡市葵区春日2-4-34

TEL 054-253-5576

FAX 054-253-5507

つつじ会の取り組み状況（令和2年1月～令和3年3月）

国・県（コロナウイルス関連）	つつじ会の取り組み状況	その他
1/16 国内最初の感染者発生 1/31 WHO 緊急事態宣言		
2/17 静岡県新型コロナウイルス対策本部設置 2/28 静岡県最初の感染者発生	2/4 役員会 2/6 全国在宅保健師等会連絡会 2/21 第2回学習会	
3/11 WHO パンデミック認定	3/5 事務局と打合せ（会長出席） 3/16 役員会延期→6/16へ 3/25 浜松市へ訪問事業報告	
4/7 緊急事態宣言発出（7都府県） 4/16 緊急事態宣言（全都道府県）	4/17 役員会中止→6/16へ 4/20 総会書面評決へ	4/16 静岡県より派遣依頼
5/25 緊急事態宣言 全域解除	・メール・文書にて役員で意見交換 5/上 保健所支援2名（熱海・富士）	
	6/16 役員会	6/29 すこやか長寿祭への保健師派遣依頼あり
7/22 GoTo トラベル開始 ～7/28 静岡県の警戒レベル3 8/6～ 静岡県の警戒レベル4★	7/21 全体研修会開催 7/30 家庭訪問事業打合せ 松崎町（会員5名） 8/24 すこやか長寿祭打合せ	7/2～8/16 すこやか長寿祭へ 保健師派遣 11回・延べ22名
9/12～静岡県の警戒レベル3	9/20 県職員採用試験における看護業務（1名）	9/25 厚労省通知 保健師人材バンクの創設検討 9/19～2/27 すこやか長寿祭へ 保健師派遣 13回・延べ25名
10/1 GoTo イート開始	10/15・23・27・30（5名） 県フレイル予防事業へ協力 10/23 役員会 視察研修会中止 学習会・10月中止 （次回2/16予定） 会報発行1回とする （1月予定） 10/30 保健師人材バンク 7名報告	10/20～22 公衆衛生学会 （オンライン開催）
11/7～静岡県の警戒レベル4★ 11/18 国内新規感染者2200人超 11/24 GoTo トラベル見直し・大阪・札幌 GoTo イート・食事券発行一部停止 12/2 GoTo 65歳以上自粛（東京） 12/8 英米でワクチン接種開始 12/12 国内新規感染者3000人超 12/13 GoTo 東京・名古屋除外 12/21 富士市内休業要請 （国の警戒レベルⅢ相当） 12/28～1/11 GoTo トラベラー一時停止	11/3 知事表彰 表彰式（会長出席） 11/10 県健康福祉部長へ表敬訪問 12/25 保健文化賞受賞 2/16 役員会延期 第1回学習会延期	11/27 保健所支援を前倒し